

# 日経平均2万8000円割れ

## モデルナCEO「有効性低い」発言で

金融市場では新型コロナウイルスのオミクロン型に対する警戒が高まった。30日の東京株式市場

で日経平均株価は3日続落し、前日比462円安の2万7821円で取引を終えた。終値が2万8000円を下回るのは約2カ月ぶり。米製薬大手モデルナの最高経営責任者（CEO）が英紙フィナンシャル・タイムズのインタビューで既存ワクチンの有効性が低いと発言し、市場でリスク回避の動きが広がった。

（関連記事11面に）

アジアでは韓国の総合株価指数（KOSPI）が6日続落し、年初来安値を更新した。香港などの株価指数も下落した。

30日の米国市場ではダウ工業株3種平均が一時500ドル超下げた。

相場は30日午前は1ドル113円台後半で推移していたが、FTの報道を受けて一時1ドル112円台まで円高・ドル安が進んだ。「国内感染例の確認も投資家の慎重姿勢につながった」（みずほ銀行の唐鎌大輔氏）

WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は日本時間30日の取引で1バレル66台に下落した。

外国為替市場では円を買う動きが強まった。円

WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は日本時間30日の取引で1バレル66台に下落した。

WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は日本時間30日の取引で1バレル66台に下落した。

外国為替市場では円を

WTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）原油先物の期近物は日本時間30日の取引で1バレル66台に下落した。